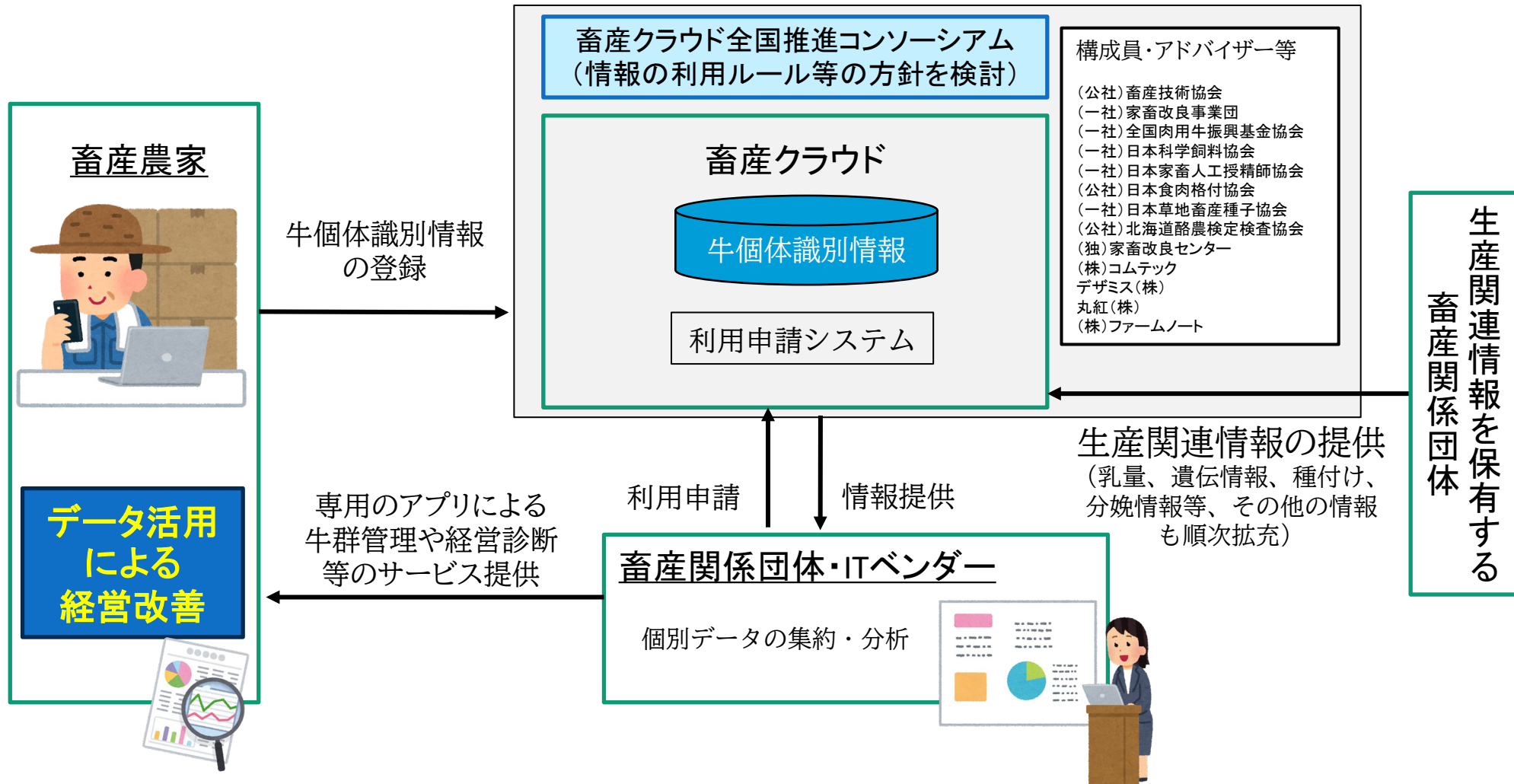


畜産クラウドの現状

令和8年10月
農林水産省畜産振興課

畜産クラウドの概要

- 畜産クラウドは、全国的な畜産関連のデータの収集・活用を目的として2018年度から運用を開始。
- 畜産関係団体、民間ベンダー等から成るコンソーシアムを組織し、方針や利用ルール等を検討。
- 基幹情報である牛個体識別情報を安定的・効率的に提供する機能を強化し、生産関連情報等と併せて集約・活用する体制を整備。



情報の集約による農家のメリット

- 情報の集約により、牛の移動履歴や乳量・乳成分といった様々な情報の一元的利用が可能。
- 複数農家の情報を集約・分析することで、各農家は類似飼養規模別・地域別といった単位との比較が可能となり、自らの立ち位置を把握することで改善すべき点の分析も可能。

【課題】現在、情報を収集・活用するには

- (1) 各情報を所有する機器や団体等から個別に収集。
- (2) 紙媒体での情報もあり、分析等の活用が難しい。
(PCで閲覧可能でも複数アプリが必要 等)
- (3) データの連動や比較による経営分析等が難しい。

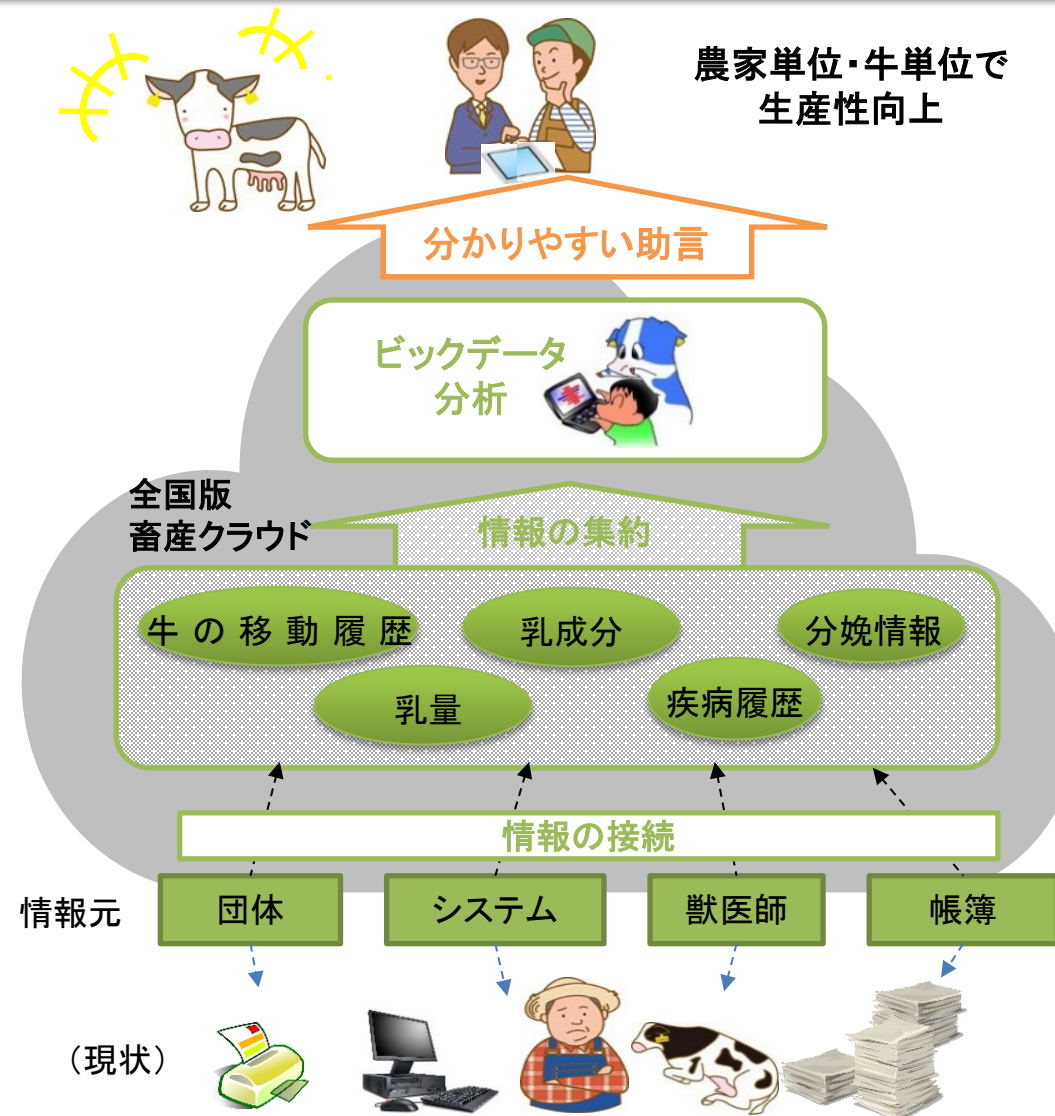
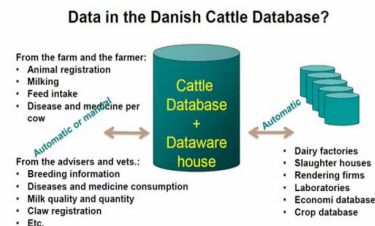
情報の集約により

- (1) 情報が一元化し、各情報の一括入手が可能に。
 - (2) データとしての入手が可能となり、情報の活用が容易に。
 - (3) 様々なデータの比較検討により、経営分析等が容易に。
- ⇒ 農家単位・牛単位で生産性の向上へ寄与。

【事例】

デンマークではデータ集約・活用の効果もあり、生産性が向上

例) 乳牛1頭当たり乳量:
'12年度 9,010kg → 21年度 10,096kg
(同時期の我が国は8,154kg→8,871kg)



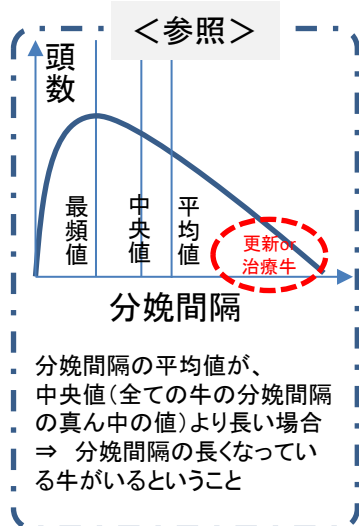
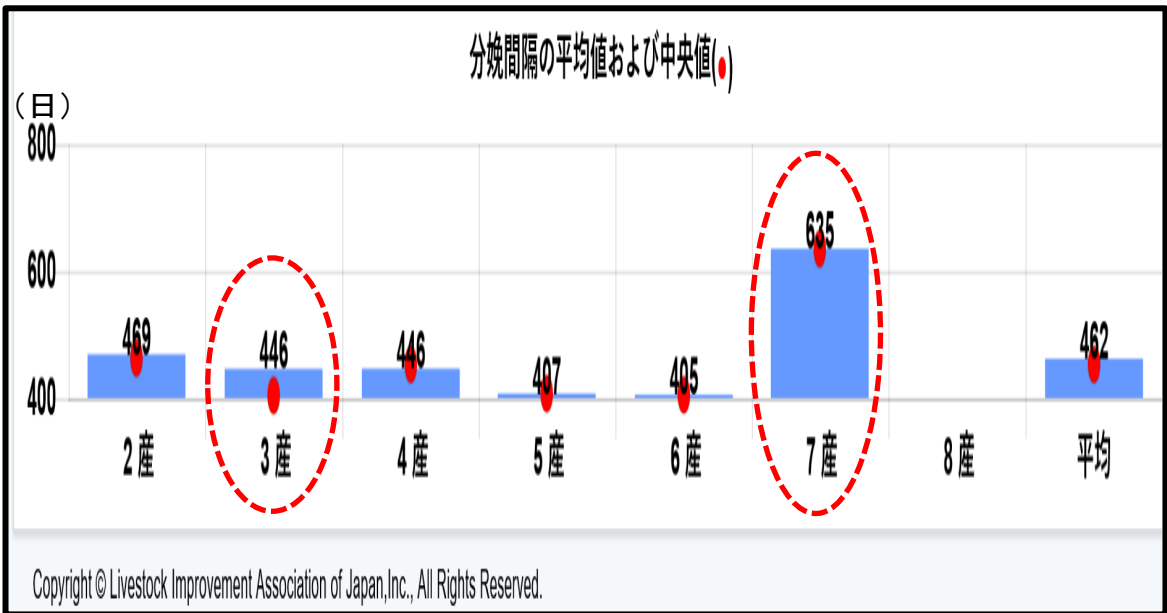
➤ 個体識別情報と連携したことで経営内の産次ごとの分娩間隔を閲覧可能。飼養改善や治療を考える牛が見える化。

- 例えば、この農家さんでは・・・
- * 3産の牛群に繁殖の悪い牛がいて、中央値(●)と平均値(棒グラフ)が乖離。
 - * 7産の牛は相当、繁殖が悪い
 - * 2産の牛は分娩間隔がやや長い

**治療など飼養改善を
考える牛が見える化！**

- * 発情1回逃すとエサ代は21日で約2万円(生産費から推計)。
- * 7産の635日を平均の462日に短縮するとエサ代▲約8.5万円。

注)子牛が死産で牛トレサ制度の届出がない場合も



<上記を閲覧するには>

- ① まずは畜産クラウドに登録。
① データー一覧を選択すると関係する農家が一覧表示される
- ② 確認したい農家の「閲覧」を選択
- ③ 農家で飼養される牛が一覧表示される。例えばここで、「農家グラフ」を選択すると上記のグラフが表示。



ログイン

① ログインID または メールアドレス

※ログインIDは農家団体コード10桁ではありません

② パスワード

> パスワードをお忘れの方はこちら

ログイン

全国畜産クラウドシステムを初めて利用される方は、利用者は個人登録が必要になります。

初めて利用される方 団体登録の方

- ① 個人登録及び団体登録が可能
- ・ 個人の場合、免許証等で登録
 - ・ 団体の場合、団体が本人確認

情報の利用 農家団体コード 農家団体名

同意状況一覧

① データー一覧

03: 07 家畜個体識別システム研究開発事業中央協議会

08: 13 テスト農家2 2018-10-09

② 閲覧

確認中

注: 農家が了承していない場合、勝手に閲覧はできません。

牛一覧 産歴一覧 農家情報 ③ 農家グラフ

ホル 他乳 黒毛 他肉 ♂ ♀ 経産 未産 個体識別番号検索 1234...

産次	個体識別番号	性別	品種	生年月日	分娩年月日	分娩間隔	産次	産子性別	母牛	母牛生年月日
+	0 2	15750 -	-4 ♀	ホル	2019/03/19	15527 -	-5	2017/03/10		
+	0 2	15750 -	-8 ♀	ホル	2019/03/26	14445 -	-7	2014/08/22		

23 畜産生産力・生産体制強化対策事業

令和9年度予算概算要求額 953百万円（前年度 784百万円）

<対策のポイント>

肉用牛・乳用牛・豚・鶏の改良や牛個体識別番号と関連する生産情報等を集約・活用する体制整備を推進するとともに、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷時期の早期化等の支援により、畜産物の生産力及び生産体制の強化を図ります。

<事業目標> [令和5年度→令和12年度まで]

- 生乳生産量：732万t→732万t ○ 牛肉生産量：35万t→36万t ○ 豚肉生産量：91万t→92万t
- 鶏肉生産量：169万t→172万t ○ 鶏卵生産量：248万t→252万t

<事業の内容>

1. 家畜能力等向上強化推進

466百万円（前年度350百万円）

遺伝子解析技術等を活用した新たな評価手法や始原生殖細胞（PGCs）保存技術等により、生涯生産性の向上、遺伝的多様性を確保した家畜の系統・品種の活用促進、脂肪の質や繁殖性に着目した改良の加速化等を推進する取組を支援します。

2. 畜産情報活用強化対策

304百万円（前年度313百万円）

畜産関係団体やITベンダー等が連携し、牛の個体識別番号を基幹情報として、当該牛に関連する生産情報等を集約・活用する体制を整備する取組を支援します。

3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進等

182百万円（前年度107百万円）

肉用牛生産における生産コストの削減や環境負荷の低減、多様な消費者ニーズへの対応に資する、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷月齢の早期化等を推進するため、

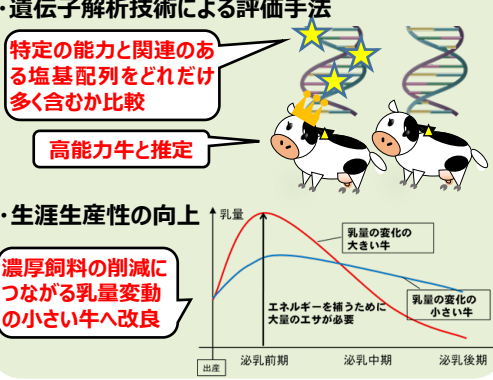
- ① シンポジウムの開催や実証事例集の作成等の全国的な普及に向けた取組
- ② オレイン酸や小ザンなどの新たな形質に着目した牛肉や、短期肥育・早期出荷により生産された牛肉の品質評価及び販路開拓を一体的に実施する取組を支援します。

<事業の流れ>

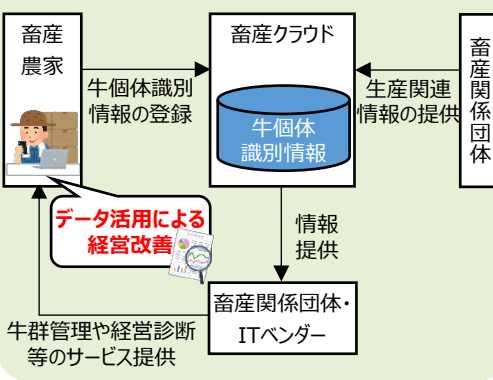


<事業イメージ>

1. 家畜能力等の向上強化



2. 畜産情報活用強化対策



3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進等

